

日 本 社 会 病 理 学 会
第 23 回 大 会
報 告 要 旨 集

開催校 : 東京女学館大学

開催期日 : 2007 年 9 月 29 日(土)・9 月 30 日(日)

会 場 : 東京女学館大学 本館

日本社会病理学会 第23回大会日程

会 期	2007年9月29日（土）～9月30日（日）		
会 場	東京女学館大学 本館 1・2・4階		
理事会	9月29日（土）	11：30～12：30（旧） 12：30～13：00（新）	2階 大会議室 2階 大会議室
総 会	9月29日（土）	16：40～17：20	1階 101講義室
懇親会	9月29日（土）	17：30～19：30	三思館

第1日 9月29日（土）

12：30 ～	受付開始（1階フロア）	
13：20 ～ 13：30	開会式	1階 101講義室
13：30 ～ 16：30	公開シンポジウムⅠ	1階 101講義室
16：40 ～ 17：20	総会	1階 101講義室
17：30 ～ 19：30	懇親会	三思館

第2日 9月30日（日）

9：30 ～	受付開始	
10：00 ～ 12：30	自由報告部会	
	Aセッション	4階 415講義室
	Bセッション	4階 419講義室
	Cセッション	4階 408講義室
13：30 ～ 16：00	公開シンポジウムⅡ	1階 101講義室
16：10 ～ 16：20	閉会式	1階 101講義室

参加費 会員および臨時会員 2000円 （大学院生 1000円）

懇親会費 5000円 （大学院生 3000円）

・連絡先 ：東京女学館大学 国際教養学部 麦倉研究室 mugikura@m.tjk.ac.jp
Tel（代）075-703-5101

・会員控室 …… 1階 食堂 ・大会本部 …… 1階 講師室

・大学付近には飲食店がありません。
大会2日目は弁当を用意しますので、希望される方は前日に受付にてお申し込みください。

・報告時に配布するレジュメ・資料等は、報告者ご自身でご用意願います。
Power Point ご使用の方へ…会場設置のPCはWindows XP です。

第1日 9月29日(土)

◆ 開会式 13:20 ~ 13:30 1階 101講義室

◆ 公開シンポジウムⅠ 13:30 ~ 16:30 1階 101講義室

「「見えざる貧困」と「新たなる排除」にどう立ち向かうか」
—— 地域から問う「ソーシャル・インクルージョン」 ——

コーディネーター： 森田 洋司 大阪樟蔭女子大学

1. 「公共」から「交響」へ
—— 生存の可能性に向けて ——
佐々木 嬉代三 立命館大学
2. 集落過疎化の現段階
—— 集落消滅、少子化、人口供給、
住民の主体的対応などの視点から ——
山本 努 県立広島大学
3. 「社会的経済」の担い手による
「社会的排除との闘い」の展開と課題
—— イタリアの社会的協同組合の歩みと岐路を題材に ——
田中 夏子 都留文科大学

◆ 総会 16:40 ~ 17:20 1階 101講義室

◆ 懇親会 17:30 ~ 19:30 三思館

第2日 9月30日（日）

◆ 自由報告

10:00 ~ 12:30

Aセッション	【 労働の場をめぐる問題 】	4階 415講義室
---------------	-----------------------	------------------

司 会：	清田 勝彦	福岡県立大学
	井出 裕久	大正大学

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| 1. ホームヘルパーの雇用・労働にかかわる政策の諸問題 | 加藤まどか | 福井県立大学 |
| 2. 警備業におけるワーキング・プアの現状
—— 求められる専門性との齟齬 —— | 田中智仁 | 東洋大院 |
| 3. ホームレスという症状をめぐる
—— 窮民のエスノグラフィー —— | 馬場佳久 | 帝京大学福祉
・保育専門学校 |
| 4. 「ホームレス問題」の新たな局面 | 大倉祐二 | 大阪市立大学 |
| 5. フリーターの就業をめぐる意識、行動と
関連要因に関する検討 | 田島博実 | (財)雇用開発センター |

Bセッション	【 社会問題とその支援 】	4階 419講義室
---------------	----------------------	------------------

司 会：	松下 武志	日本大学
	進藤 雄三	大阪市立大学

- | | | |
|---|------|--------|
| 1. 安山移民センターにおけるコシアン支援活動に見るディスコース
形成 —— コシアン・チルドレンの周縁化 —— | 高橋裕子 | 立命館大学 |
| 2. 犯罪被害者の補償論からみる「犯罪被害者」 | 大谷通高 | 立命館大学 |
| 3. 〈ひきこもり〉から〈ニート〉へのイメージ変化
—— 支援の対象と批判の対象 —— | 内田一花 | 奈良女子大学 |
| 4. 性別・年齢層別にみた自殺率と生活不安指標の時系列的関連 | 舞田敏彦 | 武蔵野大学 |
| 5. 遺族による近親者の自死の意味づけとその困難
—— 精神医学的言説が参照されたとき —— | 藤原信行 | 立命館大学 |

司 会 :

野田 陽子

淑徳大学

黒川 衣代

鳴門教育大学

1. DV被害者がサバイバーとして生き抜くために必要な
支援とは —— DV被害者の語りから ——

岩瀬久子

奈良女子大学

2. 「育児の孤立化」問題の形成過程
—— 1990年以降を中心に ——

梅田直美

大阪府立大学

3. AD/HDの子どもをもつ母親の意味世界の変容
—— 2003年度・2006年度のインタビュー調査から ——

佐々木洋子

大阪市立大学

4. わが国における移住女性の結婚・子ども・家族
—— 定住化の時代を迎えて ——

矢作由美子

常盤大学

5. K. マンハイムの社会学的心理学と特別支援教育

入江 良英

埼玉純真短期大学

◆ 休 憩

12 : 30 ~ 13 : 30

* 第1日目に受付で弁当の予約をしております。ご利用ください。

◆ 公開シンポジウムⅡ

13 : 30 ~ 16 : 00

1階 101講義室

「親 族 間 殺 人」

コーディネーター : 神原 文子

神戸学院大学

基調講演 : 平成の親族間殺人

岩井 宜子

専修大学

1. 愛情と暴力 ——家庭内暴力の研究から——

中村 正

立命館大学

2. 家族内殺人にみる親密性の落とし穴

庄司 洋子

立教大学

◆ 閉会式

16 : 10 ~ 16 : 20

1階 101講義室

第 1 日 9 月 29 日 (土)

公 開 シ ン ポ ジ ウ ム I

「見えざる貧困」と「新たなる排除」にどう立ち向かうか」

—— 地域から問う「ソーシャル・インクルージョン」——

13 : 30 ~ 16 : 30 本館 1 階 101 講義室

共催：東京女学館大学

司会・コーディネーター

森田 洋司 大阪樟蔭女子大学

報 告 者

1. 「公共」から「交響」へ —— 生存の可能性に向けて ——

佐々木 嬉代三 立命館大学

2. 集落過疎化の現段階

—— 集落消滅、少子化、人口供給、住民の主体的対応などの視点から ——

山本 努 県立広島大学

3. 「社会的経済」の担い手による「社会的排除との闘い」の展開と課題

—— イタリアの社会的協同組合の歩みと岐路を題材に ——

田中 夏子 都留文科大学

シンポジストのプロフィール

佐々木 嬉代三氏

日本社会病理学会理事。著書には、編著『社会病理のリアリティ』(学文社、2006)、編著『社会病理学講座第2巻 欲望社会—マクロ社会の病理—』(学文社、2003)、単著『社会病理学と社会的現実』(学文社、1998)などがある。消費社会化や格差社会化等を含む現代社会の動向と、そこに生起する「病理」的事象の展開過程に関心がある。

山本 努氏

『現代過疎問題の研究』(恒星社厚生閣、1996)、『日本の家族と地域性(下巻)』(ミネルヴァ書房、1997)、『現代農山村の社会分析』(学文社、1999)、『欲望社会』(学文社、2003)、『現代の社会学的解読』(学文社、2006年)、『地方からの社会学』(学文社、近刊)などの著書がある。過疎農山村、地方都市の社会学的研究に従事。

田中 夏子氏

労働者協同組合全国連合会、イタリア貿易振興会、長野大学産業社会学部教員を経て、現在都留文科大学教員。研究領域は、労働社会学、地域社会学。日本及びイタリアの条件不利地における、非営利・協同事業組織とその担い手についてフィールドワークを行う。著書に『現場発 スローな働き方と出会う』(杉村和美と共著、岩波書店、2004)、『イタリア社会的経済の地域展開』(日本経済評論社、2004)などがある。

第2日 9月30日(日)

公開シンポジウムⅡ

「親族間殺人」

13:30 ~ 16:00 本館1階 101講義室

共催：東京女学館大学

司会・コーディネーター

神原 文子 神戸学院大学

基調講演

「平成の親族間殺人」

岩井 宜子 専修大学

報告者

1. 愛情と暴力 —— 家庭内暴力の研究から ——

中村 正 立命館大学

2. 家族内殺人にみる親密性の落とし穴

庄司 洋子 立教大学

シンポジストのプロフィール

岩井 宜子氏

現在、「内閣府男女共同参画会議女性に対する暴力に関する専門調査会」会長、「日本学術会議法学会委員会ファミリー・バイオレンス分科会」委員長、女性犯罪研究会代表。著書に『刑事政策(第3版)』(尚学社、2005)、『精神障害者福祉と司法(増補改訂版)』(尚学社、2004)、編著に『児童虐待防止法』(尚学社、2002)、共編著に『児童虐待とその対策』(多賀出版、1998)、『児童虐待と現代の家族』(信山社、2003)、主要論文に「女性による殺人罪の量刑」慶応大学法学研究 56 巻 8 号(1983)、「性犯罪法の保護するもの」犯罪社会学研究 20 号(1995)等がある。

中村 正氏

臨床社会学的な実践として、DV 加害男性向けグループワークや相談を行うメンズサポートルーム主宰、性犯罪者処遇プログラムのスーパーバイス、虐待親へのグループワークや相談等。著書『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版、1996)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社、2001)、『家族の暴力をのりこえる—当事者の視点による非暴力援助論』(かもがわ出版、2001)、「殴る男—親密性の変成にむけて」(『身体をめぐるレッスン 第4巻』(岩波書店、2007)、訳書『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか—バタラーの心理学』(D・ダットン著、作品社)。

庄司 洋子氏

専門は、家族社会学・福祉社会学。とりわけ多面的で複雑な家族政策の諸作用に関心をもつ。近年は、ドメスティック・バイオレンスへのアジア諸国(おもに日本・韓国・台湾)における政策的対応について、比較調査を進めている。近著に、庄司洋子・波田あい子・原ひろ子編著『ドメスティック・バイオレンス 日本・韓国比較研究』(明石書店、2003)がある。

第2日 9月30日(日)

自由報告部会 A

【 労働の場をめぐる問題 】

10 : 00 ~ 12 : 30 本館 4 階 415 講義室

司 会

清田 勝彦
井出 裕久

福岡県立大学
大正大学

報 告 者

1. ホームヘルパーの雇用・労働にかかわる政策の諸問題

加藤まどか

福井県立大学学術教養センター

2. 警備業におけるワーキング・プアの現状 —— 求められる専門性との齟齬 ——

田中 智仁 東洋大学大学院

3. ホームレスという症状をめぐる —— 窮民のエスノグラフィー ——

馬場 佳久 帝京大学 福祉・保育専門学校

4. 「ホームレス問題」の新たな局面

大倉裕二

大阪市立大学都市研究プラザ研究員

5. フリーターの就業をめぐる意識、行動と関連要因に関する検討

田島博実 財団法人雇用開発センター

第2日 9月30日(日)

自由報告部会 B

【 社会問題とその支援 】

10 : 00 ~ 12 : 30 4 階 419 講義室

司 会

松下 武志 日本大学
進藤 雄三 大阪市立大学

報 告 者

1. 安山移民センターにおけるコシアン支援活動に見るディスコース形成
—— コシアン・チルドレンの周縁化 ——

高橋 裕子 立命館大学

2. 犯罪被害者の補償論からみる「犯罪被害者」

大谷 通高 立命館大学大学院

3. 〈ひきこもり〉から〈ニート〉へのイメージ変化 —— 支援の対象と批判の対象 ——

内田 一花 奈良女子大学大学院

4. 性別・年齢層別にみた自殺率と生活不安指標の時系列的関連

舞田 敏彦 武蔵野大学

5. 遺族による近親者の自死の意味づけとその困難

—— 精神医学的言説が参照されたとき ——

藤原 信行 立命館大学大学院

第2日 9月30日(日)

自由報告部会 C

【 家族の場をめぐる問題】

10 : 00 ~ 12 : 30 4 階 408 講義室

司 会

野田 陽子 淑徳大学
黒川 衣代 鳴門教育大学

報 告 者

1. DV 被害者がサバイバーとして生き抜くために必要な支援とは

—— DV 被害者の語りから ——

岩瀬 久子 奈良女子大学大学院

2. 「育児の孤立化」問題の形成過程 —— 1990 年以降を中心に ——

梅田 直美 大阪府立大学大学院

3. AD/HD の子どもをもつ母親の意味世界の変容

—— 2003 年度・2006 年度のインタビュー調査から ——

佐々木 洋子 大阪市立大学大学院

4. わが国における移住女性の結婚・子ども・家族 —— 定住化の時代を迎えて ——

矢作 由美子 常磐大学

5. K.マンハイムの社会学的心理学と特別支援教育

入江 良英 埼玉純真短期大学